

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標の達成状況と総括

Ⅰ 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

本プロジェクトの達成状況	基本目標			KPI		
目標値を達成	◎	1件	25.0%	3件	21.4%	
現状値より前進	○	2件	50.0%	5件	35.7%	
現状値と同値	△	0件	0%	2件	14.3%	
現状値より後退	×	1件	25.0%	4件	28.6%	

基本目標（単位）		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
将来への夢や目標を持つ子どもの割合（％）	小学生（6年生）	79.9 (R1)	76.8	76.5	74.1	80.7	78.9	90.0	▲9.9	×
	中学生（3年生）	66.2 (R1)	63.9	62.3	58.5	58.1	68.8	80.0	18.8	○
子育てが楽しいと思う保護者の割合（％）		53.8	R5取得			76.5	R10取得予定	70.0 (R5)	140 (R5)	◎
子育て世代の転出入者（人）		▲146	▲190	▲7	47	71	▲126	0以上	13.7	○

（1）次代を生きる力の育成

KPI（単位）		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生）	国語	94.0 (R1)	未実施	97.4	97.6	99.7	91.6	100	▲40.0	×
	算数	96.1 (R1)		94.0	96.5	96.0	93.1	100	▲76.9	×
全国学力・学習状況調査結果（中学校3年生）	国語	89.3 (R1)		94.4	91.3	94.6	89.5	100	1.9	○
	算数	85.3 (R1)		90.9	83.7	92.2	85.7	100	2.8	○
市内不登校児童生徒出現率（％）	小学生	0.95	1.08	1.12	1.61	1.95	2.20	0.70	▲500	×
	中学生	5.80	5.70	6.54	7.06	6.79	7.61	3.70	▲86.2	×

（2）好奇心・探求心と夢を掴む力の育成

KPI（単位）		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
新・放課後子ども総合プラン実施箇所数（か所）	一体型	-	0	0	0	0	0	4	0	△
	連携型	-	0	0	0	0	0	4	0	△
子どもわくわく教室開催数（教室）		7	3	7	8	9	9	9	100	◎

（3）結婚から子育てまで一貫したサポートの充実

KPI（単位）		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
保育園待機児童者数（人）		0	0	0	0	0	0	0	-	◎
認定こども園の数（か所）		5	5	5	5	5	6	7	50.0	○
3歳児健康診査受診率（％）		94.2	63.9	79.7	76.6	93.3	94.9	95.0	87.5	○
こんには赤ちゃん訪問事業の訪問率（％）		92.6	77.8	78.1	76.2	92.7	97.2	95.0	192	◎
ファミリーサポートセンター登録会員数（人）		411	426	417	410	418	423	435	50.0	○

（※）進捗率の算出方法について

（（R6実績-現状値）/（目標値-現状値））×100

<計画期間における総括>

●目標達成に向けた取組内容

- ・様々な体験活動や外部人材による学習に加え、ICT活用による学習内容の充実
- ・経済的理由で塾等に通えない児童生徒に対する学習できる場の提供と民間教育機関の活用
- ・不登校の未然防止や早期対応のため、スクールカウンセラーの配置時間数増加とスペシャルサポートルームの設置
- ・放課後学習クラブ(小5・6対象)と特別講座(小3・4対象)実施による放課後の居場所づくりの提供
- ・スポーツ協会、文化協会協力のもと、興味関心を高める教室開催と基礎的な技術力の向上を提供
- ・「夢」に触れる機会創出に向け、日本サッカー協会へ「夢の教室」を委託
- ・保育園待機児童者数0に向け、市全体での定員確保や入所児童数管理の徹底
- ・就学前施設再編を実施(参考:R6保育園、幼稚園の統廃合により認定こども園1園増加)
- ・3歳児健康診査受診率向上に向け、未受診者へ電話や郵送、家庭訪問による勧奨、園と連携
- ・乳児家庭孤立化防止のため、親子(母子)健康手帳発行時に事業を周知し、家庭訪問を実施
- ・ファミリーサポート制度の周知に加え、令和6年度からはひとり親等の利用会員に対する助成を開始
- ・楽しく子育てができるよう、おひさまテラス、子育て支援センター等での講座やイベント等を実施

●5年間の実績における分析結果

目標値を達成(◎)及び現状値より前進(○)したもの

子育てが楽しいと思う保護者の割合、子どもわくわく教室開催数、保育園待機児童者数、こんには赤ちゃん訪問事業の訪問率については目標値を達成することができ、将来への夢や目標を持つ子どもの割合(中学生)、子育て世代の転出入者、全国学力・学習状況調査結果(中学校3年生)、認定こども園の数、3歳児健康診査受診率、ファミリーサポートセンター登録会員数については現状値より前進がみられた。

主な要因としては、子育てが楽しいと思う保護者の割合では、おひさまテラスに対する助成拡大と支援の充実に加え、イベントの開催等により子育てが楽しいと感じられるための機会を創出した他、保育園待機児童者数では、民間保育園も含めた定員調整等により待機児童者数0を維持できたこと、こんには赤ちゃん訪問事業では、受入が円滑に進められるよう給付金の手続き案内と併せて訪問したことが一因と考えられる。なお、子育て世代の転出入者については、20歳代の外国人転入者による影響があるものの、傾向としては京田辺市への転出超過が継続しており、大阪市や東京都など大都市への転出も依然として多い状況である。

現状値と同値(△)及び現状値より後退(×)したもの

新・放課後子ども総合プラン実施箇所数については現状値と同値であり、将来への夢や目標を持つ子どもの割合(小学生)、全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生)、市内不登校児童生徒出現率については現状値より後退する結果となった。

主な要因としては、全国学力・学習状況調査結果について、基礎基本を学ぶ低学年の時期にコロナ禍の長期休業を経験したことで学力に影響を及ぼした可能性があることや、デジタル機器の長時間利用による家庭学習の時間減少等が考えられる。また、市内不登校児童生徒出現率は今後も増加傾向が続くと想定されるが、全国的にも同様の傾向であり、不登校児童生徒にとって休養の必要性を社会的に理解され、多様な学びの場が提供されるようになり学校以外の選択肢ができたことが背景にあると考えられる。

●今後の方向性

八幡の未来をつくる子どもたちが、次代を生きる力を育み、夢と希望を抱き、それらに挑戦しようとする力を育成し、八幡で子育てをしたい、続けたいと思えるよう子育て環境の魅力向上を行う。

(1)幼小架け橋プロジェクトや水泳指導民間委託、八幡市・八幡浜市中学生交流等により、就学前教育・保育及び学校教育を充実させるとともに、配慮が必要な子どもへの支援体制整備や、次代に求められる能力の育成に注力する。

(2)子どもわくわく教室や農業体験、地元住民や事業者との連携等により、自ら考え、好奇心を持って探求する子どもの育成や、将来の夢に触れる機会の創出を図り、それらに挑戦しようとする力を育む。

(3)子育て支援医療給付やファミリーサポートセンター運営等、地域社会全体で子育て世帯を支える環境づくりに取り組み、人口減少に歯止めをかけるためにも経済的支援の充実や育児相談機能の強化も図りながら、一人でも多くの人が「八幡で子育てをしたい」と思えるまちづくりを進める。

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標の達成状況と総括

2 健康都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

本プロジェクトの達成状況	基本目標		KPI	
目標値を達成	◎	1件	33.3%	3件 33.3%
現状値より前進	○	2件	66.7%	3件 33.3%
現状値と同値	△	0件	0%	0件 0%
現状値より後退	×	0件	0%	3件 33.3%

基本目標		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%(※)	
健康クラウドシステム	からだの状況とライフスタイル	1.5/5.0	1.0/5.0	1.0/5.0	2.5/5.0	2.5/5.0	2.5/5.0	3.5/5.0	50.0	○
	ソーシャルアクティビティ	1.5/5.0	1.5/5.0	1.5/5.0	3.0/5.0	3.0/5.0	3.0/5.0	3.5/5.0	75.0	○
	スマートウェルネスシティインフラ	2.0/5.0	3.0/5.0	3.5/5.0	4.0/5.0	4.0/5.0	4.0/5.0	4.0/5.0	100	◎

(1) スマートウェルネスシティやわたのプロモーション

KPI (単位)	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%(※)	
定期的に運動をしている市民の割合 (%)	58.9 (H28)	R3取得	58.7	R9取得予定	R9取得予定	R9取得予定	67.5	▲2.3 (R3)	×
健康づくりイベント参加者数 (人)	2,500	684	400	490	1,089	447	4,000	▲137	×

(2) 市民協働で行う高齢者の健康づくり

KPI (単位)		現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%(※)	
産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室	実施箇所数 (か所)	5	5	7	7	7	7	20	13.3	○
	参加者数 (人)	106	93	118	136	157	162	500	14.2	○
平均寿命と健康寿命の差 (歳)	男性	1.80	1.96	2.22	1.98	1.90	1.70	現状値より縮小	-	◎
	女性	4.09	4.06	3.79	4.00	3.70	3.80	現状値より縮小	-	◎

(3) 誰もが気軽に参加できる健幸プログラムづくり

KPI (単位)	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%(※)	
ウォーキングマップの認知度 (%)	25.7 (H28)	R3取得	27.0	R9取得予定	R9取得予定	R9取得予定	40.0	9.1 (R3)	○
市民スポーツ公園利用者数 (人)	197,561	104,992	96,707	128,271	121,956	127,077	163,200	▲541	×
運動公園利用者数 (人)	17,560	13,961	15,434	19,921	18,101	22,298	19,160	296	◎

(※) 進捗率の算出方法について

((R6実績-現状値) / (目標値-現状値)) ×100

<計画期間における総括>

●目標達成に向けた取組内容

- SWC推進のため、やわた未来いきいき健幸プロジェクトを実施(参考:R6年度末 約4,900名参加)
- 上記の一環として、健幸アンバサダー養成事業、健幸マルシェ・ウォーキングイベント等を実施
- 高齢者の健康づくりのために、元気アップ介護予防教室を開催
- 地域コミュニティ醸成とフレイル予防のため、住民主体の運動教室「ご近所筋トレ」の立上げを支援
- フレイルの日記念イベントを開催し、講演やフレイル予防体験会などを実施(R5)
- 市内公園施設充実のため、長さ88mに渡る雲梯の設置(R2)とスケートボードパークを整備(R4)
- 市民体育館の屋根改修に着手するなど老朽化したスポーツ施設の修繕、更新を実施(R6)
- 公園の賑わいづくりに向け、有料施設の効果的なPRやイベント開催等に関し、指定管理者への助言、指導

●5年間の実績における分析結果

目標値を達成(◎)及び現状値より前進(○)したもの

健康クラウドシステム(スマートウェルネスシティインフラ)、平均寿命と健康寿命の差、運動公園利用者数については目標値を達成することができ、健康クラウドシステム(からだの状況とライフスタイル・ソーシャルアクティビティ)、産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室、ウォーキングマップの認知度については現状値より前進がみられた。

主な要因としては、平均寿命と健康寿命の差について、主力事業であるやわた未来いきいき健幸プロジェクトは、R5年度の医療・介護給付費では約3.3億円の抑制効果が得られており、新型コロナウイルス感染症流行時にも各自で健康づくりに取り組むことができたことなどにより、歩数の増加及び運動習慣の維持が図れたことが大きいと考えられる。また、各種健康イベントの開催や、フレイル予防に取り組むきっかけを提供したことにより、健康意識の向上が見られたことなどが考えられる。

現状値と同値(△)及び現状値より後退(×)したもの

定期的に運動をしている市民の割合、健康づくりイベント参加者数、市民スポーツ公園利用者数については現状値より後退する結果となった。

主な要因としては、健康づくりイベントについては、慢性的な体制不足やコロナ禍の経験を踏まえ、大規模イベントから小規模開催を複数回実施する形式に見直しており、従来までの大規模イベントと比較すると、小規模開催では一回あたりの参加者数が限られるためと考えられる。また、市民スポーツ公園利用者数については、新型コロナウイルスの影響により利用者が落ち込んでから完全には回復しておらず、特に屋外施設よりも屋内施設である市民体育館利用者の回復が鈍化していることが挙げられる。

●今後の方向性

人口減少・超高齢社会に対応すべく、一人ひとりがいつまでも「健康」で「幸せ」を感じ、いきいきと輝き続けるまちとなるよう、市内スポーツジムと連携した健康づくり教室の開催や、健康無関心層への働きかけなどを行い、八幡で暮らすことで健幸になるまちづくりを進める。

(1)「やわたスマートウェルネスシティ構想」及び「やわたスマートウェルネスシティ計画」を着実に推進するとともに、健幸マルシェややわたヘルスプロモーション等により、健康づくりへの関心を高めるためのプロモーション活動を実施する。

(2)健康コミュニティ推進や元気アッププロジェクト等により、地域で課題を共有・対策する体制の構築や、これまでの取組で行動変容につながっていない健康無関心層や高齢者もやりがいを感じ、気軽に取組がはじめられるような仕組みの構築を推進する。

(3)スポーツ活動や食・生活の改善を通じた健康づくり習慣の定着を行う他、施設の老朽化や維持管理経費の高騰等が課題となっている都市公園管理等については、民間のノウハウ等の活用により公園の賑わいづくりに取り組む。

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標の達成状況と総括
3 観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

本プロジェクトの達成状況	基本目標		KPI	
目標値を達成	◎	0件	0%	1件 16.7%
現状値より前進	○	1件	33.3%	1件 16.7%
現状値と同値	△	0件	0%	1件 16.7%
現状値より後退	×	2件	66.7%	3件 50.0%

基本目標（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
年間観光入込客数（万人）	219	175	168	189	185	178	285	▲62.1	×
年間観光消費額（億円）	6.27	4.32	4.77	5.37	5.44	5.21	8.50	▲47.5	×
観光情報ハウスへの外国人来訪者数（人）	1,020	74	28	323	951	1,350	1,800	42.3	○

（1）おもてなしの心の醸成

KPI（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
ボランティアガイド人数（人）	77	76	74	73	74	74	106	▲10.3	×
市民文化祭参加者数（人）	3,000	中止	中止	3,000	3,000	3,000	3,000	-	◎
お茶学習参加者数（人）	34	25	中止	中止	28	15	80	▲41.3	×

（2）幸せと出逢う観光まちづくり

KPI（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
商品開発数	1	1	1	1	1	1	2	0	△
プロモーション（商談会）参加件数（件）	5	2	3	4	3	3	8	▲66.7	×
観光意欲度（位）	375	388	450	396	384	367	200以上	4.6	○

（※）進捗率の算出方法について
（（R6実績-現状値）/（目標値-現状値））×100

<計画期間における総括>

●目標達成に向けた取組内容

- 文化活動への参加機会確保と交流を促進するために、市民文化祭や音の祭典 in YAWATAを開催
- 八幡のてん茶や茶文化の魅力を伝えるため、松花堂庭園・美術館での茶席体験を実施
- お茶に親しむ機会や八幡の茶文化を学ぶ機会を提供する目的で、お茶学習を実施(小学生対象)
- 観光基本計画に基づき、本市の豊富な歴史的資源と自然資源を活用した観光施策を推進
- 歴史的資源と自然資源を活用すべく、他自治体と連携した情報発信や施設整備の検討
- 背割堤の活用方法の検討やニーズの掘り起こし・賑わい創出のため実証実験や国への要望活動を実施

●5年間の実績における分析結果

目標値を達成(◎)及び現状値より前進(○)したものと

市民文化祭参加者数については目標値を達成することができ、観光情報ハウスへの外国人来訪者数、観光意欲度については現状値より前進がみられた。

主な要因としては、市民文化祭はコロナ禍により開催中止を余儀なくされたものの、再開後、現状値と同等の来場者数が戻ってきており、市民にとって文化活動を発表する市のイベントとして定着しているためと考えられる。また、観光意欲度については、2025年大阪・関西万博を契機に、淀川舟運の復活により「水都・大阪」及び京都府域を含む淀川沿川地域の魅力を世界に発信すべく、関係者が協議・連携・検討し、淀川舟運の更なる活性化に向けた取組を推進しており、順位は徐々に上がりつつある一方で、他市町も同様に、観光における魅力発信に取り組んだ結果、若干のランク上昇にとどまったものと考えられる。

現状値と同値(△)及び現状値より後退(×)したもの

商品開発数については現状値と同値であり、年間観光入込客数、年間観光消費額、ボランティアガイド人数、お茶学習参加者数、プロモーション（商談会）参加件数については現状値より後退する結果となった。

主な要因としては、商品開発数では、駅前販売の実施やイベント等への参加によりヤワタカラの市内認知度は着実に向上しているが、「浜乃風」以降、商品開発に向けた取組が進んでいないためである。また、観光入込客数や観光消費額について、コロナ禍では様々なイベントが縮小・減少したため、その影響を受けている他、コロナ禍を経たライフスタイルの変化や観光ハイシーズンが天候に恵まれなかったため、R6は前年より減少したのと考えられる。コロナ禍が明けてから、イベントは徐々に再開されるも、観光客に関してコロナ禍前までの戻りが弱い傾向にある。さらに、お茶学習については、学校数を拡充し実施する予定であったが、関係団体との調整の結果実現には至らず、目標値の達成には至らなかったと考えられる。

●今後の方向性

八幡が国内だけでなく世界中から「訪れる先」として選ばれるよう、市民や関係団体と協働し「ヤワタカラ」の充実やおもてなし環境の創出に加え、駅前整備やインバウンド需要を取り込むための外国人ニーズに合わせた取組の検討等を行い、ブランド・コンセプトを活用したプロモーションにこれまで以上に取り組むなど、交流人口の拡大を目指すとともに、関係人口等の創出・拡大・本市へのひと・資金の流れの強化を目指し、万博閉幕後も国内外から訪れてもらえるようなコンテンツの造成を推進する。

なお、一人あたりの観光消費額を増加させるための取組については、周辺自治体や民間事業者などと連携し、観光資源を活用したイベントの実施や情報発信により観光誘客を推進するとともに、コロナ禍以降、観光ニーズが団体から個別に変化しているため、関係機関と協力し、市内周遊の仕組みを検討する。

（1）名勝松花堂及び書院庭園保存活用や、市民文化祭、音の祭典 in YAWATAの開催等を通じ、歴史・文化芸術等の保存・活用や、その魅力に触れる機会の創出を図り、シビックプライドを向上させる他、お茶の京都普及や八幡産てん茶普及や啓発、茶文化等を活用したイベント等の実施や、新・空中茶室創造プロジェクト推進事業等を通じて、市民と来訪者等との交流を促進し、おもてなしの心の醸成を図る。

（2）やわたブランド創造事業等により「チームやわた」で観光まちづくりのブランド構築に一丸となって取り組み、インバウンド対応情報発信等を通じた積極的な情報発信や、石清水八幡宮駅周辺整備、公共交通対策、淀川舟運整備推進事業など、ハード・ソフト両面から観光まちづくりに取り組むとともに、玄関口である石清水八幡宮駅周辺のにぎわいづくりに取り組む。

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標の達成状況と総括

4 みんなで創る多機能能力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

本プロジェクトの達成状況	基本目標		KPI	
目標値を達成 ◎	2件	33.3%	3件	25.0%
現状値より前進 ○	1件	16.7%	8件	66.7%
現状値と同値 △	0件	0%	0件	0%
現状値より後退 ×	3件	50.0%	1件	8.3%

基本目標（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
転出入者数（人）	▲215	▲272	▲73	9	96	▲172	0以上	20.0	○
地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数（団体）	4	7	7	7	7	6	6	100	◎
まちの魅力度（全国順位）（位）	381	440	384	469	491	390	200以上	▲5.0	×
創業支援の相談者のうち創業に至った件数（件）	1	3	10	5	4	6	4	167	◎
認定農業者数（人）	73	66	65	65	60	62	78	▲220	×
八幡市ボランティア連絡協議会登録団体の所属人数（人）	285	266	307	272	258	261	310	▲96.0	×

（1）「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

KPI（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
松花堂庭園茶室利用者数（人）	823	131	732	2,243	2,079	2,465	3,000	75.4	○
収穫体験参加者数（人）	171	217	230	270	312	286	310	82.7	○
わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合（％）	49.9 (H28)	R4取得	R4取得	53.0	R9取得 予定	R9取得 予定	55.0 (R4)	60.8 (R4)	○
リカレント教育推進講座の受講者数（人）	545	中止	417	527	529	547	650	1.9	○
市域就職面接会で就業に至った人数（人）	4	1	中止	3	2	8	6	200	◎
居住意欲度（全国順位）（位）	259	307	224	292	270	180	150以上	72.5	○

（2）「人と人が支え合う暮らしの絆づくり」へのチャレンジ

KPI（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
日本語教室の在籍者数（人）	35	112	115	90	92	88	50	353	◎
地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数（団体）	4	7	7	7	7	6	6	100	◎
就労系福祉サービス利用者及び一般就労移行者の数（延べ人数）（人）	1,947	2,293	2,421	2,466	2,615 (参考)	2,793 (参考)	2,500 (R4)	93.9 (R4)	○

（3）やわたEDISONチャレンジ！

KPI（単位）	現状値	実績					目標値	進捗率	達成状況
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6	%（※）	
創業相談件数（件）	28	36	49	10	16	36	40	66.7	○
担い手農家の農地利用集積面積（ha）	121	131	130	130	125	128	130	77.8	○
市民協働活動センター利用人数（人）	2,029	926	771	1,236	1,426	1,071	2,200	▲560	×

（※）進捗率の算出方法について

（（R6実績-現状値）/（目標値-現状値））×100

<計画期間における総括>

●目標達成に向けた取組内容

- ・自然に触れ合う機会の創出に向け、市民農園の運営や農産物収穫体験を実施
- ・リカレント教育では生涯学習活動の推進に繋げるため、話題のテーマや時代を中心とした講座を実施
- ・人材確保や就労機会創出に向け、市域就職面接→合同企業説明会へ名称を変更し、開催回数を増加
- ・日本語教室を開設・運営する市内団体に対して、教室の場所や印刷物の提供等、間接的な支援を実施
- ・地域ネットワーク構築に向け、男山地域の活動団体や専門機関等を交えた座談会を実施
- ・ボランティア連絡協議会登録団体の所属人数を増やすため、大学と協働して動画を作成し啓発を実施
- ・就労系福祉サービス利用者及び一般就労移行者に対して、必要な就労サービスの提供を実施
- ・創業支援を促進するため、創業支援機関を追加し、ワンストップ窓口の充実を実施
- ・創業(予定)者の経営・財務・人材育成・販路拡大スキル獲得に向け、関係機関との連携や支援を実施
- ・農地利用集積面積拡大に向け、農業委員会と協力し、農家の経営安定化に向けた取組を推進
- ・農家の作業性・生産効率向上のため、経営規模拡大の支援や、スマート農業技術を搭載した農機具等の導入を助成
- ・市民協働活動センター利用促進のため、施設紹介や団体の活動内容について情報収集・発信等を実施

●5年間の実績における分析結果

目標値を達成(◎)及び現状値より前進(○)したもの

地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数、創業支援の相談者のうち創業に至った件数、市域就職面接会で就業に至った人数、日本語教室の在籍者数については目標値を達成することができ、転出入者数、松花堂庭園茶室利用者数、収穫体験参加者数、わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合、リカレント教育推進講座の受講者数、居住意欲度、就労系福祉サービス利用者及び一般就労移行者の数、創業相談件数、担い手農家の農地利用集積面積については現状値より前進がみられた。

主な要因としては、地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数については、「談話」プロジェクトによる取組として、地域で活動する団体間の話し合いの場づくりを支援した結果であり、創業に至った件数では創業支援員によるサポートや、創業経費の助成を通じた支援の充実によるものであると考えられる。また、日本語教室の在籍者数については市内の外国人居住者の増加に伴い、ニーズが高かったためと考えられる。なお、松花堂庭園茶室利用者数では目標値は未達であるが、日曜茶席をはじめとする各種茶道の取組により現状値を大きく上回ることができ、就労系福祉サービス利用者及び一般就労移行者の数では、一般就労に向けた支援体系の形成や事業所数の増加に伴い、障がい者の就労の幅が広がったためと考えられる。

現状値と同値(△)及び現状値より後退(×)したもの

まちの魅力度、認定農業者数、八幡市ボランティア連絡協議会登録団体の所属人数、市民協働活動センター利用人数については現状値より後退する結果となった。

主な要因としては、認定農業者数では高齢化の影響を受け年々減少傾向であり、市民協働活動センターの利用人数が減少した背景としては、コロナ禍以降、会議等のオンライン化が定着したことや、メンバーの高齢化による活動の減少等が考えられる。

●今後の方向性

人口減少社会を見据え、20歳代を中心とした移住・定住を促進するためにデジタル技術を取り入れ、「生活都市」から「多機能能力を有したまち」への発展に加え、市民一人ひとりが地域や身のまわりの課題に向き合い「ともに考え、ともに実現するまちづくり」を推進し、中心となる担い手を育成する。

（1）シビックプライドの醸成やデジタル技術の活用等を通じて、安心・安全で日本一魅力的な心豊かに暮らせるまちを目指し、八幡に住みたい・暮らし続けたい人を増やす取組にチャレンジする。

（2）自治組織団体との連携や「談話」プロジェクト、多文化共生に向けた理解促進・啓発等を通じて、地域コミュニティの活性化や市民参画・協議の取組を進め、地域共生社会の実現にチャレンジする。

（3）商工業活性化補助制度や地域農業担い手認定者支援、生涯学習人材バンクの活用等を通じて、チャレンジ精神溢れる起業家やまちづくりの担い手の発掘・育成等を行う。